

# 国語問題

## 〔注意事項〕

- 一、試験開始の合図あいずがあるまで、開かないこと。
- 二、問題は□〜□で、二十ページにわたって印刷してあります。  
ページが抜けるなどしていた場合には、試験監督かんとくの先生に申し出なさい。
- 三、解答は、すべて解答用紙に記入し、受験番号・氏名をもれなく、正確に記入すること。
- 四、問題冊子の表紙にも、受験番号・氏名を必ず記入すること。

受験番号

氏名

一

次の①～⑩の——線部について、漢字はその読みをひらがなで、カタカナは漢字に直して書きなさい。

- ① 河原でバーベキューを楽しむ。
- ② めきめきと頭角をあらわす。
- ③ 全十巻の本を讀破した。
- ④ チームの要として活躍する。
- ⑤ うそも方便ということばがある。
- ⑥ どうしたものかとシアンする。
- ⑦ 長年の口ウをねぎらう。
- ⑧ 会議を口クオンする。
- ⑨ さまざまなソクメンからものを見る。
- ⑩ ソウコに荷物をしまう。

◎文中からそのまま抜き出して答える場合、句読点や記号は一字とすること。また、ふりがなのある漢字は、ふりがなをつけなくてもかまいません。

二

著作権の関係上、大問二は掲載いたしません。大問三にお進みください。





















三

次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

ライオンやトラほどではありませんが、オオカミも比較的大型の肉食獣で、世界各地で減少し、絶滅した場所も少なくありません。日本のオオカミも一〇〇年ほど前に絶滅しました。ここではヨーロッパとアメリカのオオカミのことを考えます。

ヨーロッパでは長いあいだ小麦を栽培してパンを作り、ヒツジを飼育して肉や毛皮を使う生活が続ききました。中世と呼ばれる時代にはヨーロッパにも森林が広がり、オオカミやクマがいて森林は怖い場所だというイメージがありました。そうした生活の中で、ときどきヒツジがオオカミに襲われて殺されることがありました。ヒツジの死体を見つけた農民はシヨックを受け、オオカミを残忍な動物だと考えました。そして憎いオオカミを殺そうとしました。

ところがオオカミはたいへん頭のよい動物ですから、人がしかけたワナにはなかなかかからないし、その裏をかいて別の場所に現れてヒツジを襲ったりしました。ほかの動物ならうまくつかまえることができてもオオカミはなかなかそうはいきませんでした。だから人々は、オオカミは不思議な力を持っていると考えるようになりました。

その時代はキリスト教が強い影響力を持っており、人々は日々聖書を読んでいましたが、その中に悪魔のことが出てきます。悪魔は心は悪いのですが、とても頭がよくすぐれた能力を持っていると信じられていましたから、オオカミは悪魔と結びつけられるようになりました。そのイメージはどんどん膨らんで、実際よりも何倍も大きくおどろおどろしい動物になっていき、オオカミがいれば、悪いことをしなくても殺すのが当然だと考えられるようになっていました。

新大陸が発見されると、ヨーロッパから北アメリカに移住がおこなわれるようになりました。北アメリカには野生動物が溢れるようにいました。バイソンやリヨコウバトなどが、いかにたくさんいたかについての記述が残されています。オオカミもいましたが、ヨーロッパから渡ってきた人々はオオカミについて悪魔のようなイメージを持っていましたから、新しく渡った土地でもオオカミを見れば殺しました。開拓は東部から始まり、西へ西へと進んでいきました。

ロッキー山脈と呼ばれる大きな山脈がカナダとアメリカを貫いて南北に走っています。その一角にワイオミング州があり、

イエローストーン国立公園があります。ここは一八七二年に世界で初めて国立公園になった場所で、今でもすばらしい自然が残されています。<sup>②</sup>考えてみれば不思議なことですが、動植物を保護するためのこの国立公園の中でも、オオカミは殺され続けました。理由は家畜を襲うからということもありますが、それよりも「オオカミは悪魔だから」というイメージが先行して、<sup>③</sup>オオカミという動物がいれば殺すのが当然のように考えられていたためです。そうして一九二三年に最後のオオカミが殺されて、「撲滅」が成功しました。<sup>④</sup>

そうしてオオカミがいなくなると、オオカミに食べられていたシカが増えました。イエローストーンには三種類のシカがありますが、中でも体が大きく数も多いのがエルクと呼ばれるシカです。エルクはオオカミがいなくなつてから急激に増えました。その結果、植物に影響が出るようになりました。

その程度はどんどん強くなり、森林の跡継ぎになる若い木がほとんどなくなるようになりました。こうなると森林が維持できなくなります。また、低木類や草本類も強い影響を受けて植物の量が少なくなりました。そのため土砂崩れが起きたり、土地に保水力がなくなつて洪水が頻繁に起きるようになりました。

さらに、低木類がなくなつたために、ある種の鳥が巣を作れなくなりました。また、川が変化したためにビーバーが暮らせなくなりました。このように、オオカミがいなくなり、エルクが増えたことが、イエローストーンの生態系全体のさまざまな面に大きな影響を与えることがはつきりしてきました。

こういう事態を見て、生態学者や公園関係者が議論した結果、オオカミを戻したほうがよいということになりました。そしてオオカミに対する悪いイメージを取り去るために、学校でも社会でも説明会などを開くなどして、実はオオカミはすばらしい動物なのだ、ということ伝える努力がなされました。そしてついに「オオカミ、お帰りなさい計画」が実現しました。<sup>④</sup>長いあいだ悪魔のように考えられていたオオカミを、地元の小生たちが「お帰りなさい」と歓迎したのです。

その後、さまざまな準備期間を経て、オオカミがイエローストーン国立公園に放たれました。オオカミの動きが追跡され、

オオカミがどういふ場所でエルクを襲うか、どれくらいのエルクを食べるか、またそれはいつのことで、殺されるエルクの年齢はどれくらいかなどのデータもとられました。(注7) もちろんエルクの頭数や、エルクがオオカミに対してとる警戒行動、利用する場所の変化なども調べられました。

オオカミが戻って来たことの影響ははっきり現れました。たしかにエルクは減り、森林も甦(よみがえ)ってゆきました。川ももとのようになり、ビーバーも戻ってきたのです。

イエローストーンのできごとはたくさんを教えてください。ひとつは、ヨーロッパからの移民はオオカミを悪魔とみなす文化を新天地にまで持ち込んだということです。たしかに、オオカミの撲滅が進められた背景のひとつには、放牧家畜が襲われたことがありました。その意味ではオオカミを殺すことは合理的な判断でもあったのです。しかしそれが理由であるならば、被害を出す一部のオオカミを駆除すればよいのであって、見さかしく皆殺しにする必要はないはず(注9)です。それを撲滅にまで追いやった根本には、オオカミに対する偏見(へんけん)があったことはたしかでしょう。人は自分の育った文化のなかで価値観をはぐくむもので、そこから逃(のが)れるのはとてもむずかしいことなのです。

学(まな)ぶべきことのひとつは、オオカミを撲滅したとき、関係者は、人とオオカミという二者対立の図式(しゆしき)だけでしか考えていなかったということ(注10)です。まさかオオカミを殺すことで鳥がいなくなるとか、川の水の流れが影響されるなど(およ)ばなかつたこと(注10)でしょう。しかし、自然界の生き物はつながっているのです。イエローストーンでのオオカミに関するできごとは、自然のしくみを理解して(注7)いないと大きな過(あやま)ちを犯(おか)す、ということ(注7)を教えてください。

このようにさまざまな問題や過ちがありました(注10)が、アメリカでのできごとを批判するだけではフェアではありません。私たち日本人が反省すべきこともあります。日本でも二〇世紀の初めに本州のオオカミと北海道のオオカミが絶滅しましたが、少なくとも北海道のオオカミは「撲滅」されたのであり、それには「先進国」アメリカの撲滅技術(注11)が導入(じゆうりゆう)されました。ストーリーキニーネという毒薬(どくやく)を使って撲滅したのです。日本人はオオカミを悪魔(あくま)のように毛嫌(けきら)いはしていませんでしたが、明治時代の

北海道開拓では森林を伐採(注12)することやおオカミやヒグマを駆除することはむしろ正当な仕事であり、推奨(注13)されていたのです。そうした流れの中で北海道のおオカミ撲滅がおこなわれました。

アメリカではオオカミ撲滅の悪影響に気づき、大きなプロジェクトとしてオオカミ復帰を実現させました。失敗をしても論理的に過ちであると気づいて反省し、困難な復帰計画を成功させたことは高く評価できます。こういう姿勢は大いに学ぶべきだと思います。オオカミ復帰の結果、少数ながら家畜が襲われるということもあり、その場合はオオカミを駆除し、補償(注14)金を出すなどの対応がなされています。そのような困難な活動を粘り強く進めていることも、また見習うべき点と言えるでしょう。

(高槻成紀『動物を守りたい君へ』)

(注1) 残忍な…まったく情けをかけず、むごいさま。

(注2) 新大陸…新しく切りひらかれた大陸。ここでは、アメリカ大陸をさす。

(注3) バイソンやリョコウバト…バイソンはウシ科。リョコウバトはハト科の動物である。ともに乱獲(注15)により絶滅。または絶滅があやぶまれている。

(注4) 開拓…新しい土地を切りひらくこと。

(注5) 先行…一歩先に立っていること。

(注6) 草本…いわゆる「草」の、植物学上の名前。

(注7) データ…調査や実験によって得られた事実や数値(注16)。

(注8) 移民…移り住んできた人々。

(注9) 放牧…牛や馬などを放し飼(注17)いすること。

(注10) フェア…公平であること。

(注11) 導入…取り入れること。

(注12) 伐採…樹木を切り出すこと。

(注13) 推奨…よいものとしてすすめること。

問一  
——線①「憎いオオカミ」とありますが、なぜ「憎い」のでしょうか。その理由として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア しかけたワナにかからないオオカミに、なんだかバカにされているようだから。
- イ おとなしくかわいらしいヒツジを襲い、残忍な方法で殺し、食べてしまうから。
- ウ 自分たちの生活にとって必要なものを提供してくれるヒツジを殺してしまうから。
- エ ただでさえ怖い場所とされる森林をすみかとして、クマとともに行動しているから。

問二  
~~~~線②「裏をかいて」③「おどろおどろしい」の意味として最も適当なものをそれぞれ次の中から選び、記号で答えなさい。

②「裏をかいて」

- ア 他人とは正反対のことを考えて
- イ いつもとは違った見方をしてみて
- ウ 予めよく考え、しっかりと準備して
- エ 相手が予想できないようなことをして

③「おどろおどろしい」

- ア ひどく不気味に感じられる
- イ 恐ろしいほど優れている
- ウ まったくつかみどころがない
- エ 風変わりで奇妙な感じがする

問三

——線②「考えてみれば不思議なことですが」とありますが、なぜ不思議なのでしょう。その理由として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 恐ろしい能力を持つオオカミに人間が立ち向かってゆくなど、考えられないことだから。

イ すばらしいはずのオオカミが、十九世紀後半になってもまだ悪魔であると信じられていたから。

ウ 国立公園が設立された目的が動植物の保護ならば、その中にいるオオカミも保護されるべきだから。

エ 世界で初めてできた古い国立公園ではあるが、今でもなお美しい自然が残されているから。

問四

——線③「『オオカミは悪魔だから』というイメージ」とありますが、人々は、オオカミについてどのような生き物であるというイメージをいただいていたのでしょうか。それを具体的に示している本文のことを利用して、「……生き物。」に続くように、二十五字以内で答えなさい。

問五

——線④「『オオカミ、お帰りなさい計画』」とありますが、その計画の内容として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア これまで人間がオオカミに対して持っていた悪い印象をぬぐい去り、生態系の一員として迎え入れようという計画。

イ 地元の小学生に自然のすばらしさを教えることによって、将来、オオカミ復帰の手助けをしようという計画。

ウ 人々の生活をおびやかすエルクをオオカミに食べてもらうことにより、公園にふたたび平和を取り戻そうという計画。

エ オオカミによって生活の場をうばわれたエルクやビーバーのような動物を、ふたたび公園に呼び戻そうという計画。

問六 — 線⑤「オオカミに対する偏見」とありますが、その内容として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア ヒツジを殺したオオカミたちが、次は人間を襲うのではないかと**恐怖心**。
- イ 自分たちが豊かな暮らしを送れないのはすべてオオカミのせいだという**被害者意識**。
- ウ オオカミは**ずるがしこくて**残忍で恐ろしい動物であるというかたよった見方。
- エ イエローストーンの生態系の変化はオオカミによってもたらされたのだという誤解。

問七 — 線⑥「二者対立の図式だけでしか考えていなかった」とありますが、どのように考えていたということですか。その内容と

して最も適切なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 人間への影響など気にもとめず、オオカミとエルクのことばかり考えていたということ。
- イ 他の生き物との関わりを**考慮せず**、人間とオオカミの**関係だけ**を考えていたということ。
- ウ オオカミの**一面しか見ようとし**ないで、**排除することばかり**考えていたということ。
- エ オオカミは生態系の**一員にすぎないのに**、人間のように特別な動物だと考えていたということ。

問八 — 線⑦「大きな過ちを犯す」とありますが、「大きな過ち」とは何でしょうか。「……こと。」に続くよう、自分で考えて、

十字以内で書きなさい。

問九 最終段落で筆者が主張している内容として正しいものを次の中から二つ選び、記号で答えなさい。

- ア 日本はアメリカばかり批判することをいったんやめて、自分たちに向けられた批判にもじっくり耳をかたむけるべきである。
- イ 森林伐採や動物の駆除がまったくの誤りであったということを全面的に認め、環境かんきょうに優しい生活を送ろうと心がけるべきである。
- ウ アメリカと同じやり方をするのは困難をとまなうが、あきらめることなく「オオカミ、お帰りなさい計画」の実行を試みるべきである。
- エ 元にもどした生態系を維持いじするという困難な課題に正面から取り組むだけでなく、その活動を根気強く継続けいぞくしていくべきである。
- オ オオカミから家畜を守れなかったことを反省し、過ちをくり返さないためにも、家畜を守るような生態系のあり方を考えるべきである。
- カ 日本でも、みずから犯おかした過ちを認め、どんなに困難であっても、生態系を本来の姿に戻すという計画を立て、それを実現すべきである。